

## 秦・長曾我部の会、全国連合会発足報告

丸谷憲二

高知県立高知城歴史博物館にて、3月9日に「秦・長曾我部の会、全国連合会」の発足式が開催されました。高知県と岡山県の秦氏研究者による組織です。赤穂市の秦氏を学ぶ会は参加を見送られました。岡山県からは、岡山歴史研究会、岡山歴史楽習塾、秦歴史遺産保存協議会から21名が参加しました。

会場へのバスの中では、高橋義雄氏による「東北大学名誉教授 田中英道氏」の紹介があり、内田武宏氏から田中英道氏の著書、「イロハのイとは、その意味が隠されていた」と「ユダヤ人は日本に同化した 言語比較から見るヘブライ語と日本語」の骨子抜取報告がありました。三幡鉄道研究会での幡地名研究の副産物ですが視点の鋭さに驚かされました。板野忠司氏からは、「秦氏は何処から来たのかの、従来からの3説の説明と、渡来時期」についての説明があり、丸谷憲二から「3説は全て間違い。新説を6月に北公民館で講演する。今日は古事記説を田中英道先生に提出するために参加した」と報告しました。・・・別紙参照

### 秦・長曾我部の会、全国連合会発足式

発起人の片岡昌一氏の司会にて、会の名称、会の目的、役員選出が決定しました、活動方法として毎年持ち回り開催、活動発表との説明に対して、丸谷より「会の全国展開を考えるならば、ズーム会議のオンライン開催がベスト。」事務局長の下に広報委員2名でかつ広報のプロとのこと。検討を依頼しました。



発起人 片岡昌一氏（歴史作家）事務局長 岡林誠氏（宮司） 広報 長谷川周三氏（広報のプロ）



岡山歴史研究会事務局長 山田良三氏 秦歴史遺産保存協議会会長 板野忠司氏

事務局体制は若く、広報委員は二人で、長谷川周三氏は広報のプロです。ここが岡山歴史研究会の運営委員会との相違点です。

## 基調講演 田中英道氏 『渡来人秦氏と古代日本』



美術史学の立場からの報告です。特に倉敷考古館に類似埴輪があり、新鮮に感じました。

## 討論会



## まとめ

板野忠司氏から田中英道氏への「秦氏は何処から来たのかの、渡来時期」についての厳しい質問、富久豊氏からの春日神社に関する質問等、秦氏研究は岡山が先行していることを印象付けました。丸谷から田中英道説の邪馬台国の記録なし説は調査不足を指摘しました。邪馬台国説を否定した本を出版されているとのことでした。

事務局長の岡林誠氏（宮司）より個人的に、「聖徳太子の渡来元についての質問」があり、メールにて返答しますと回答。田中英道先生への手紙、古事記説は参加者全員にコピー配布されました。個人的にも参加してよかった。楽しい高知県訪問でした。